

● 縣下の寶庫

9/3 (2)

無人島の産物

昨日出港の二見丸にて古賀辰四郎氏が無人島に於て採取したアイサシ鳥(白鳥黒羽)百四十二箱、鰹節五十五包、肥料及諸雜貨合て百六十包と輸出せり。尤も羽毛の如は外國婦人ボンネット裝飾用として非常に珍重され居る者にして、本年全島に於て採取せられたる分、大約卅萬羽の多さに達したる由にて、氏は之を半製品とせし、藥品贈として箱に詰輸出せり。鰹節は包太凡百五六十斤もあるべしと云ふ見事なる大節なり。昨日は奈良原縣知事、第四部長等を始めとし、相良百四十七銀行頭取、海江田丑之助及河新聞記者等、皆荷に先立ちて觀覽したり。古賀氏は有名なる眞珠貯藏家にして、金銀及び其他鈍色等多くの珍品を所有せり。どのとなるが中には頗る大粒のものもありと云ふ。今般輸出されたる肥料は専らアイサシ鳥の骨及び肉等なるが、全島は又た頗る經濟的のものにして、羽皮は洋人の裝飾となり、肉と骨とは肥料に供さるゝ、外絞られたる脂は機械油に使用さるゝ、由伏開列島に於ける全島の經營は今後益々有利のものとして、氏が多年の苦心に酬ふるあるべしと也。